

進捗状況の概要 ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1ページ】

東京藝術大学は、世界中で活躍する芸術家や海外大学等との価値観の交流を通じ、日本古来の技と美意識を継承しつつ、新しいテクノロジーや世界の動向を捉え、社会との連帯のまなざしをもつ、真にグローバルな芸術人材の養成、その芸術の世界発信、芸術文化活動の活性化を目指し、4つの方向性で取り組みを実施。

1. インテグレーション【統合・集積】－組織整備、人事・教務システム改革等による全学での事業推進

事業開始に併せ、全体統括・企画立案・施策推進を担う教員・事務組織（グローバルサポートセンター、国際企画課、戦略企画インテリジェンスユニット等）、取組状況の確認・検証を行う全学委員会（グローバル戦略推進委員会および評価検証委員会等）を新設し、構想実現に向けた「オール藝大」体制を整えた。

また、卓越教員制、年俸制、全シラバスの英語科などの人事・教務システム改革を行うとともに、国際化を牽引しつつ分野横断の取組を中心的に進める教育研究組織（芸術研究院、国際芸術創造研究科、美術研究科グローバルアートプラクティス専攻、音楽研究科オペラ専攻）を創設し、国際共同カリキュラムの開発や国際プロジェクトが多発的・一体的に進行し、大学全体として教育プログラムの高度化が着実に進捗した。

2. コラボレーション【共同・共演】－海外一流大学等と共同で進めるグローバル人材育成・芸術活動

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、パリ国立高等音楽院、メトロポリタンオペラ、ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ、フランス国立映画学校等の一流芸術家・研究者を計画的・持続的に招致し、特別講義・個人指導・共同成果発表等をカリキュラムの中に戦略的に組み込み実施している。

また、各国を代表する芸術大学・機関との連携関係を強化・拡大し、例えば美術研究科では、パリ国立高等美術学校、ロンドン芸術大学、シカゴ美術館附属美術大学との共同カリキュラムとして国際芸術祭等を舞台に現代アートによる社会実践を推進している。「大学の世界展開力強化事業」の枠組みも活用し、中東・中国・韓国・ASEAN 諸国・アメリカの計 14 大学と多様な国際プロジェクトを重層的に展開しており、映像研究科では、南カリフォルニア大学 (USC)、韓国芸術総合学校、中国伝媒大学とゲームやアニメーションという新しいメディアの国際共同制作を核とした人材養成を重点的に進めている。

こうした取組の結果、学生・教員の派遣・受入、国際共同体制による教育研究の実施が飛躍的に進み、学生の国際的活動の増加、キャンパス環境のグローバル化等の成果が確実に得られている。

3. ディベロップメント【展開・発展】－芸術を核としたグローバルコミュニティの形成と発展

平成 28 年度に「全国芸術系大学コンソーシアム」を結成し（令和 2 年 8 月現在 58 大学加盟）、本学の取組・成果を普及するとともに、小中学校で芸術科目を教える教員の研修に活かせるようにしている。

また、「上野文化の杜」新構想の中核機関として、産学官連携でアートフェスティバルや市民参加型の文化事業を展開している。国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻では、グローバルな視座から芸術と社会との繋がりを探究し、学生たちが地域の文化事業のマネジメントや展覧会・演奏会等の企画・開催を実践的に行い、台東区や足立区の地域づくりに貢献しつつ、日本の芸術文化の国際発信に寄与している。

4. ブランディング【価値・プレゼンス向上】－世界の TOKYO GEIDAI としての内外発信

平成 29 年度の創立 130 周年に「NEXT 10 Vision」として「革新的であること・多様性があること・国際的であること」を掲げ、目指すべき方向性を内外に示した。令和元年度には Web サイトの大幅リニューアルを行い、「東京藝大を知らない層」をも惹きつけるコンテンツの発信を開始した。

また、「Global Homecoming」等の開催による帰国留学生とのネットワークの構築、国内外における国際機関との連携、各国要人の来訪、政府間周年事業への参画、連携大学等を拠点とする海外での活動展開、国際的な芸術祭・コンクール・映画祭等での学生の受賞・入賞、教員の外国政府からの叙勲等も進み、芸術文化の国際発信拠点として、「世界の TOKYO GEIDAI」のプレゼンスが高まってきている。

アウトカムを裏付ける主なデータ	平成 25 年度	平成 28 年度	令和元年度
海外留学経験学生数	91 人	223 人	328 人
外国人留学生数	138 人	283 人	421 人
海外大学・機関との共同プロジェクト参加者数	201 人	1,802 人	1,961 人
海外での制作・展示・公演等参加者数	45 人	309 人	518 人
外国人学生の出願数	144 人	232 人	512 人
国際交流協定締結大学・機関数	19 か国 52 大学等	23 か国 63 大学等	28 か国 77 大学等

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】**アーティストとしての語学力や異文化理解力を身に着ける「国際コミュニケーション講座」の開始**

事業開始時より、学生がアーティストとしての自分自身と作品、日本の芸術文化を英語で世界に向けて発信できるよう支援を行っている。この取組を強化し、令和2年度から、日本の各芸術分野（初年度は工芸、版画、邦楽、アニメーション）の教養を歴史的・体系的に英語で教授する「日本文化を英語で学ぶ」、アーティストステートメントや作品紹介等を英語で行うスキルを養成する「アーティスト・芸術系研究者のための英語」、多様な文化的背景や価値観を持つ人々と芸術活動を行う上で必要な教養を身に付けさせる「グローバルアーティストのためのリベラルアーツ」を柱に通年で講義を始めた。

ベルリンフィルハーモニー・カラヤンアカデミーとの人材育成に係る協定（特別選抜制度）締結

本学の音楽分野における人材育成の特色は、早期教育プロジェクト、ジュニア・アカデミー、SGHに指定された附属音楽高等学校を含む幼少期からの一貫した音楽教育である。これに平成30年度、世界最高のオーケストラの一つベルリン・フィルハーモニーが設置するカラヤン・アカデミーとの間で人材育成に関する協定を締結し、同アカデミーでは世界初の特別選抜制度を創設した。この協定により選抜された学生は2年間同アカデミーに留学する。アカデミーとの共同オーディションで選抜された第1期生は、アカデミー生として学びつつ、令和元年のベルリン・フィルハーモニー来日公演でも楽団員とともに舞台上に立った。

海外一流企業との若手支援「コミテコルベールアワード」と「夢の展覧会」

美術学部・研究科では、海外一流企業との連携を深め、学生の海外進出を支援する取組に注力している。その一つがシャネルやセリーヌ等のフランスを代表するラグジュアリーブランド81社と歴史的文化施設14団体から成る「コルベール委員会」と共同して平成29年度に創設した「コミテコルベールアワード」である。審査で選ばれた学生に作品制作費が支給され、同委員会と共催による大学美術館での展覧会で作品発表の機会が与えられる。また、初年度は、最終審査で選ばれた優秀作品3点を制作した学生がパリに招かれ、フランス最大の国際コンテンポラリーアートフェアであるFIACにおいて特別展示を行う榮譽を受けた。

創立130周年記念「五大陸アーツサミット」の開催

創立130周年（平成29年）は、集中的に對外発信を行った。その一つが、北米、南米、ユーラシア、オセアニア、アフリカの各大陸を代表する芸術系大学長・学部長を招致しての「五大陸アーツサミット」である。芸術の重要性や21世紀のアーティストの役割、グローバルなプラットフォームの構築、グローバルアーティスト育成のための幅広い教養とその基盤整備、芸術と科学の融合等について活発に討議を行った。サミット終了後も特にUSCとはゲーム制作人材に係る国際共同プロジェクトの実施など、関係性が深まっている。

ニューメディアにおけるグローバル人材の育成 日中韓 Co-Work/日米ゲームクリエイション

日本が世界から注目を集める分野にゲームとアニメーションがある。ち密で繊細な芸術表現ができる人材育成に定評のある本学と、最新テクノロジーの摂取やダイナミックな作品作りに強みをもつ海外連携大学とがタッグを組み、双方の特色を生かした教育プログラムを共同で進めている。アニメーションについては、平成28年度から、韓国芸術総合学校、中国伝媒大学、本学の学生が混成チームを組んで短編アニメーション作品を仕上げている「国際共同演習 Co-work」を中心に据えたプログラムを実施し、将来的な国際アニメーションコース創設を目指している。ゲームについては、平成30年度から、ゲーム教育で北米トップのUSCと、スクウェア・エニックス等の産業界の知見をも取り入れた「工学技術と人を感動させる芸術表現能力を兼備したグローバル人材」の育成を本格的にスタートさせている。

「AI映像同期システム」を使ったライブ・アニメーション・コンサートの世界展開

大学院映像研究科がアカデミー賞ノミネート作家等の多国籍のアニメーション作家に委嘱してクラシック音楽の名曲ヴィヴァルディ「四季」の音楽世界をアニメーション化し、本学COI（Center of Innovation）拠点で、生演奏の音を感知し、映像を音の動きにシンクロさせるAI（人工知能）を活用した世界初の「AI映像同期システム」を（株）ヤマハと共同開発した。芸術と科学、伝統の技と最新テクノロジー、産と学の融合により、生演奏とアニメーションがぴったりと寄り添う、これまでにない新しい芸術による、ライブ・コンサートを実現させた。平成31年1月にアメリカ（映画産業の中心地ロサンゼルス）、令和元年6月にフランス（アヌシー国際アニメーション映画祭）、エストニア、ブルガリアでの連続上演を行った。ブルガリア国立文化宮殿での上演では、3000人の観客席を有するホールが創設以来、初めて満席になった。